

会議録

市民部 環境生活課

期日	令和7年12月19日(金)	時間	13:30~14:35	場所	清掃センター会議室
会議名	糸魚川市廃棄物減量等推進審議会				
出席者	委員	高橋委員、猪又委員、田原委員、佐藤委員、吉川委員、福田委員、斎藤委員、名本委員、石野委員 <欠席：井守委員、濱田委員、石井委員、月岡委員、大月委員、遠藤委員>			
	糸魚川市(事務局)	【環境生活課】木島課長、木嶋課長補佐、橋場係長、伊藤主査、渡辺主査 【ガス水道局】塚田係長			
	傍聴者	なし			

1 開会

2 あいさつ

3 自己紹介(資料 No.1)

4 正副会長の選出(資料 No.2)

正副会長の選出について諮ったところ、会長に田原委員、副会長に佐藤委員が選出、承認された。

5 議事

(1)一般廃棄物処理基本計画の令和6年度進捗状況等について(資料No.3)

<説明内容>

ごみの減量目標として定める数値と実績値の差は縮まらず横ばい状態が続いている。来年度以降もごみの発生抑制や排出抑制につながる取組を実施し、更なるごみ減量につなげたいと考える。

<主な質疑・意見>

(委員)1(1)の家庭系ごみについて、令和2年度以前から現在まで、どういった傾向だったか(事務局)平成26年度から平成30年度までの間で、一番低い年は平成28年度で610g台だったが、次の年から微量ながら増加傾向となり、620g台から630g台と推移している。令和2年度以降はコロナ渦での巣ごもりから増加したものと分析している。

(2)一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて(資料No.4)

<説明内容>

令和7年度の予測値では中間目標値の達成が難しいと見込まれるため、目標値の設定に用いた国県の数値を最新の数値に置き換え新目標値を算出したが、この数値であっても目標の達成は難しいと見込まれる。

目標値の達成に向け、ごみの減量や資源化を進めるための施策を新たに設けることは、市民への負担が大きく、さらに経費がかかる。高齢化が進み、また物価が高騰しているこのタイミングで、見直しを行うことは難しいのではないかと考え、地道な取り組みとなるが、市民一人ひとりとの対話を重ねることで適正な処理へとつなげていきたいと考える。

<主な質疑・意見>

特になし

(3)家庭系ごみの排出方法及び収集方法の変更について(資料No.5)

<説明内容>

気候変動に伴う作業環境の過酷化や深刻化する人手不足に対応するため、令和8年度から排出方法や収集方法を一部変更及び廃止したい。

<主な質疑・意見>

(委員)プラスチック製容器包装類の回収が、毎週1回あったものが、1回なくなり2週先で回収されるとききの支障はないか。

(事務局)毎週1回必ずあったものがなくなるので、市民には不便をおかけすると思うが、業者と調整する中で他の収集とのやりくりも検討したがうまくいかず、この体制でやらせていただけないかという気持ちでいる。また、市民からの声を聞く中で、他の方法で回収体制を組めないか検討してみたい。

6 報告事項

(1)安全安心なごみ処理への取組について(資料No.6)

<説明内容>

一般家庭から排出されるごみの中で、分別を誤り、出された危険ごみの事例及びそれによって起こった事故事例を説明。

全国的に問題となっているリチウム蓄電池による火災事故も含めた事故防止対策では、ごみの分別ガイドブックや防災行政無線での呼びかけだけでは防ぐことが難しいため、清掃センターの施設見学や出前講座の場で、市民一人ひとりに現状と正しい分別や出し方を説明している。施設見学と出前講座をセットにした説明会もできるので、ぜひ利用いただきたい。

<主な質疑・意見>

(委員)遡ってしまうが、ごみが減らない理由は何か分析されているか。また、ごみを減らせる余地があればどのように考えているか。説明をいただいたうえで、どうするのか話し合うかと思うのでお聞かせください。

(事務局)ごみの全体量は人口減もあってか、減少傾向ではあるが、人口一人当たりの家庭系ごみは、なかなか減っていない現状である。課の中でも原因を話し合っているが、コロナもあったという経過もあるかと思うが、はっきりこれだと言えるものが見つからない状況である。減らせる方法として、一つにはごみの有料化を行う、一時的だが2割減すると聞いており、また、ごみの分別を今19種類に分けているが、更に種類を増やして資源として活用できるようにする方法があるかと思う。

分別の種類は県内でも多い方に位置しており、高齢化が進む中で、細かい分別をお願いすることになると、市民が戸惑うことも大きいと思われる。また、有料化についても、今現在、市の施設全体の手数料・使用料の見直しを12月議会で議決いただいたが、有料化を諦めるわけではないが、物価も上がる中、このタイミングが適切なのかという議論もある。これという決め手がない中で、市民対話型の集会などで、深く理解していただく場を増やしていきたいと考えている。

(委員)ひとつ気になるのは、生ごみは殆どが水分のため、しっかり水切りをしてから出すよう案内されていると思うが、他に余計な物は買わない、消費期限切れで捨てるものを減らす、などの呼びかけをすることで、ごみを減らす余地はあるのではと思うが、生ごみを減らす余地はないか。

(事務局)おっしゃるとおり、生ごみの水分を切ってから出してもらうことで、かなり減量に繋がる。出前講座に参加いただいた方に、水を切るグッズをお配りして、実感していただく取組を行っている。また、もったいないの心 10 か条や食べ残しゼロを目指す取組も啓発している。

(事務局)家庭系ごみが減ることで、ごみの減量も大きく変わるが、上越市のような資源化への取組にはコストや事業費がかかり、投資は難しい。今まで家庭系ごみの展開調査を行ったことがないため、できましたら組成調査を行い、ごみを減らすための市民周知へつなげたいと思う。

7 その他

(事務局)委員報酬の支払いに関するお知らせ

8 閉会

副会長あいさつ

以上